

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3691200020		
法人名	社会福祉法人 有誠福祉会		
事業所名	グループホーム 希		
所在地	徳島県名西郡石井町石井字石井1994番地		
自己評価作成日	平成25年9月1日	評価結果市町村受理日	H25年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成25年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外出困難な方に季節感を味わっていただくための壁面飾りを工夫している。(利用者と一緒に作成している)何事も強要することなくゆったり、自分のペースに合わせながら支援している。仕事をしているという充実感を持ってもらうため、ちぎり作業を行っており、その収益は利用者へのプレゼント代に充てている。地域の祭り、清掃作業に積極的に参加している。施設内の行事や隣接している施設の行事に参加したり、買い物や外出支援を積極的に行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、道路から少し入り込んだ山間部の麓に位置している。職員は、利用者の尊厳や権利を尊重しつつ、寄り添う介護の実践に努めている。利用者は、ちぎり絵作業に励んだり、外出を楽しんだりして、穏やかな表情で生活を送っている。事業所の交流会や夏祭りなどの行事の際には、同一法人の運営する他サービス事業所と連携を図ったり、近隣の小学校や保育所の子どもを招待したりして、積極的に地域との交流を図っている。また、運営推進会議では、事業所の現状報告や意見交換を行い、参加者から出された要望や意見をサービスの質の向上に反映させている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			希1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社会的役割やグループホーム独自の理念を認識し明確に掲げている。職員はホームの理念を共有し日々のケアサービスに生かしている。	月1回の職員会議やミーティング時に、職員間で地域密着型サービスの意義を確認している。理念を目につきやすいところに掲示したり、朝礼時に唱和したりして、職員間の共有化に努めている。職員は、理念をケアの原点と捉えて日ごろの実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の保育所より園児が来園し交流を図っている。また併設施設(養護老人ホーム)に地元小学生が課外授業に来園したり老人会が定期的に慰問に来ている。	事業所として自治会に参加するまでには至っていないが、地域の清掃活動等へ積極的に参加するなどして交流を図っている。事業所で花見や夕涼み会、クリスマス会などを開催し、家族や地域住民、保育所の子どもを招待している。また、同一法人の運営する他サービス事業所と協力し、田植えや稲刈り、ピオトープの観察を行うなどして交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民と事業所職員により地域の清掃活動を実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者のサービス状況、現状などを報告し次回につなげている。	年6回、運営推進会議を開催している。利用者や家族、民生委員、町担当者等の参加を得ている。事業所の現状報告や情報交換を行っている。参加者から出された助言や意見は職員会議の際に話しあい、サービスの質の向上に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と運営推進会議はもとよりそれ以外の場合においても常時、相談助言が得られる関係作りにも努めている。	日ごろから、町担当者に相談や報告を行い、協力関係の構築に努めている。出された助言や意見を運営面に反映し、サービスの質の向上に繋げるよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者が抱える転倒、転落等のリスクに対して、身体拘束をしない介護上の工夫を行っている。玄関は安全上のためやむ負えず暗証番号式のロックにて安全を確保している。	年1回、法人本部の事業所と連携を図って職場内研修を開催している。全職員で身体拘束の弊害を理解し、利用者の自由な暮らしを支えることができるよう取り組んでいる。また、マニュアルを作成したり、外部研修へ積極的に参加したりして、人権を尊重した取り組みへと繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者と職員は時間がある限り話し合い、些細な事柄でも口に出してお互いにストレスをためないようにしている。虐待防止についての講座に参加したり参考文献により、それについて学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			希1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用者の方で成年後見人制度が必要な方はいませんが、その仕組みや手続きなどをインターネット、資料を参考として勉強している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に時間を費やし相手が理解、納得するまで説明している。重要事項説明はもとより、苦情解決、個人情報の同意、看取り、身体拘束などについても相手が分かりやすく事細かく説明するよう心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会などを利用し気のつくことなどを出していただいている。定期的な報告としては「希だより」を年4回、家族会を年2回開催予定としているが不定期的な急を要する報告は電話などを行っている。	年2回、家族会を開催したり、家族の来訪時に職員から積極的に声かけを行ったりして、意向を把握するよう努めている。利用者や家族から出された意見は職員会議の機会に検討し、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員が気安く話ができるように月1回以上のカンファレンス時にも時間を十分設けており何でも話せる環境作りにつとめている。	管理者は、月1回の職員会議やカンファレンス、朝礼等の機会に職員の意見を引き出すよう努めている。日ごろの業務のなかでも職員の声に耳を傾け、自主性を尊重することで働く意欲の向上やサービスの質の確保に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の得意な分野を見つけ出し自信を持って取り組んでもらい各自の意欲向上を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時には接遇マナー研修を受講しスキルアップのためには段階に応じた研修を受講し受講後は研修内容報告会を実施し、全職員で共有が出来るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などには積極的に参加し他の施設の職員と顔なじみになり、お互いが気安く交流できるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			希1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に利用者本人が何を望んでいるかじっくり聞き取りを行い、意思疎通が出来ない方には家族担当ケアマネより過去の生活状況性格、趣味、等を聞き出しそれに基づいて利用後の処遇方法に役立てている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅時の家族の苦労やサービスの利用状況、グループホーム利用希望に至るまでの経緯について聞けるように心がけている。家族とも信頼関係が結べるよう何かかも話していけるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	即入居を促すのではなく本人、家族の要望、状況をじっくり把握して必要とあればケアマネ、包括支援センターへつなぎ他方面から支援できるようにつとめている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人、家族の要望、状況をじっくり把握して、利用者担当者・計画作成担当者等を通じて、支援できるようにつとめている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に、本人の体調や状態を伝え、情報を共有できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで築いてきた馴染みの関係を大切にして頂く為にも、友人知人の面会もお願いしている。自由な面会の受け入れ、及び文書発送等も積極的に行っている。	職員は、利用者が馴染みの美容院を利用することができるよう支援している。利用者がこれまで培ってきた人間関係や地域社会との関係性の把握に努め、関係が途切れることのないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	屋間はなるべく居室へ閉じこもらないように促し、ホール等で机に座り、お互いが顔を見て食事をしたり話をしたり出来る環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			希1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方等は、時々電話をしたり訪問してその後の健康状態、生活状況などを聞き、要望があれば相談に乗るようにしている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を大切に、出来る限り意向どりの暮らしが出来るように配慮している。意思疎通が困難な方に関しては、家族の意向または本人の立場に立って考え、よりよい暮らしが出来るよう配慮している。	職員は、日ごろの利用者との関わりのなかで、一人ひとりの会話や表情等に目し、意向を把握するよう努めている。意思の疎通が困難な方には、家族から情報を得たり、些細な表情や動作の変化等から意向を把握するよう努めたりして、その人らしい暮らしの実現に向けた支援へと繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にはケアマネや家族などから丁寧に聞き取りを行い入居後にも面会した折には再度過去の状況について聞き取りを行い詳しい生活状況の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の身体状況、認知度の状況を把握し、のびのび生活できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	出来るだけ家族等よりの情報を基によりよいケアプランとなるよう努めている。	本人や家族の思いを大切に捉えたうえで、医師や職員、関係者間で意見交換やモニタリングを行って介護計画を作成している。利用者一人ひとりの状況に応じた介護計画となるよう見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の日常生活の様子、気づき等を個人ファイルに記入し出来るだけ申し送り等で情報の共有化に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に応じて、美容院、外出、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			希1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的な消防訓練の実施を積極的に行っている。又支援センターのソーシャルワーカー、訪問看護師等と連携を図りながら、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	いつでも気軽に相談でき、緊急時に対応してもらえる協力医療機関がある。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。協力医療機関とは、24時間の連絡が可能な体制を構築しており、本人や家族の安心に繋がっている。また、家族の協力を得たうえで、専門医への通院を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の協力のもと、健康管理や医療活用の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携病院への定期的受診により、看護師との情報交換に留意しながらサービスの向上に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについては、限界があるためその旨を入居時に家族に説明している。家族に希望を聞き出来るだけ希望に添えるように努力している。	事業所として看取りの指針を整備している。サービス開始時の段階で利用者や家族に説明を行って同意を得ている。利用者の心身状況に応じて、本人や家族の意向を確認し、かかりつけ医や関係者と相談したうえで対応方針の共有化を図っている。本人や家族の意向にそうすることができるよう、チームで連携を図って支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設マニュアル、過去の事例をもとに管理者を中心として定期的カンファレンス、ロールプレイを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回行っている防災訓練を通して災害時における対応策を学んでいる。又、地元消防団、隣接する関連施設への救助要請をできるようにしている。	年2回、消防署の協力を得て、避難・消火訓練を実施している。災害に備えて物品を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			希1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応には気を配っている。特に本人の主張することは拒否しないで傾聴し受容するように心がけている。	職員間で、利用者の人格尊重やプライバシー保護に係る対応方法について具体的に話しあっている。利用者の支援を行う際にはさりげない声かけや誘導を心がけており、排泄や入浴の支援の際には特に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人一人の意見や希望を重視し大切にしている。又、訴えのない方には選択肢を設けたりして意思を表せるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間がかかっても相手のペースに合わせ見守ることが必要、手を出しすぎないように心がけ、出来ていないことや間違っていることは、共に後からフォローするようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院は外出も兼ね馴染みの美容室に連れて行ってあげ、パーマ等おしゃれしている。身だしなみも季節や気温や場に合わせることは勿論体調に合わせて快適に暮らせるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時間は音楽を聴きながら、和やかな雰囲気の中一人一人が自分のペースで食事をとることができるよう十分な時間を確保し実施しています。	併設事業所の管理栄養士が献立を作成している。昼と夕食は併設事業所で調理し、事業所で盛りつけを行っている。利用者の力量に応じて、片付けなど役割を担ってもらっている。利用者と職員でおやつをつくったり、音楽を取り入れたりして、食事の時間が楽しいものとなるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的には栄養士の献立で調理しているので栄養のバランスはとれている。毎食後の水分摂取量のチェックを行い定期的にお茶の時間を設け水分補給に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入れ歯の洗浄や歯磨きなど食後や就寝前の口腔内の衛生に努めているが嫌がる方の対応が難しい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			希1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の誘導や介助はプライドを傷つけないよう配慮して行っている。排泄記録を使用し排泄パターンを把握することによりなるべく失敗しないよう支援している。	排泄記録から一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレへと誘導している。トイレでの排泄を習慣づけ、排泄の自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックシートを活用している。下痢状態があるときは粥食にしたり、その時の体調に合わせて柔軟に対応している。また、便秘に関しては、歩行訓練、体操、繊維食摂取等で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望を取り入れ不安や羞恥心に配慮し時間をかけて行っている。ただ、本人が希望しても、バイタルチェックにて異常が出た場合はご遠慮していただく場合がある。	毎日の入浴を支援している。羞恥心や不安感を取り除くよう、プライバシーに配慮した入浴の支援を心がけている。入浴を拒む方には、声かけや気分転換を行い、一人ひとりの好みに応じて入浴を楽しむことができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく自宅で使用していた布団、枕等を使用していただき馴染みのある環境作りに努めている。夜は安心して深い眠りが取れるように昼間はなるべく活動するように支援して生活リズムの調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬について説明書を全スタッフが目を通すように徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意分野を役割とし、洗濯ほし、洗濯たたみ、家庭菜園などそれぞれ持てる力を発揮して楽しみながら行えるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い時などは近くのビオトープに出かけて行き自然を満喫したり、近所の方と話をしたりして過ごしている。又家族との外出、外食など一緒に出かけられるような場面や機会を作っている。	日課として、天気が良い日には近くのビオトープへ散歩に出かけたり、週2回、買物へ行ったりしている。月1回、遠出の機会を設けており外出の機会は多い。花見等の外出時には、家族にも参加してもらっており、その人らしい暮らしを保ちつつ毎日を生き生きと暮らせるよう支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			希1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常の金銭管理は、本人の能力に合わせて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があるときは随時電話、手紙にて本人の希望に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内には四季折々の環境作品や花を飾り自宅にいるという空間作りに努めている。	利用者と職員で作った作品や写真等を共用空間に展示しており、家庭的な雰囲気がある。利用者の残存機能に配慮しつつ、手すりを設置したり、場所の表示を行ったりしている。清掃も行き届いており、居心地良く過ごすことができるよう環境整備を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆっくり会話が可能なようにソファを配置したりゆっくり座れる場所を用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内への持ち込みは火気を除いては自由としており、自宅で使用していた物に囲まれた生活ができるようにしている。又、ベッドやタンスにおいても本人が使いやすい配置にしてある。	利用者は、居室に自宅で使っていた家具や写真を持ち込んでいる。清掃も行き届いており、利用者が馴染みの空間で居心地良く過ごすことができるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自身で可能な部分は出来るだけ自分で行っていただくようつとめている。又、転倒の危険性を低くして安全に自由に歩行できるよう配慮している。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			希2 実践状況	実践状況	実践状況
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社会的役割やグループホーム独自の理念を認識し明確に掲げている。職員はホームの理念を共有し日々のケアサービスに生かしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の保育所より園児が来園し交流を図っている。また併設施設(養護老人ホーム)に地元小学生が課外授業に来園したり老人会が定期的に慰問に来ている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民と事業所職員により地域の清掃活動を実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者のサービス状況、現状などを報告し次回につなげている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と運営推進会議はもとよりそれ以外の場合においても常時、相談助言が得られる関係作りに努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者が抱える転倒、転落等のリスクに対して、身体拘束をしない介護上の工夫を行っている。玄関は安全上のためやむ負えず暗証番号式のロックにて安全を確保している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者と職員は時間がある限り話し合い、些細な事柄でも口に出してお互いにストレスをためないようにしている。虐待防止についての講座に参加したり参考文献により、それについて学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			希2 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用者の方で成年後見人制度が必要な方はいませんが、その仕組みや手続きなどをインターネット、資料を参考として勉強している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に時間を費やし相手が理解、納得するまで説明している。重要事項説明はもとより、苦情解決、個人情報同意、看取り、身体拘束などについても相手が分かりやすく事細かく説明するよう心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会などを利用し気のつくことなどを出していただいている。定期的な報告としては「希だより」を年4回、家族会を年2回開催予定としているが不定期的な急を要する報告は電話などを行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員が気安く話ができるように月1回以上のカンファレンス時にも時間を十分設けており何でも話せる環境作りにつとめている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の得意な分野を見つけ出し自信を持って取り組んでもらい各自の意欲向上を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時には接遇マナー研修を受講しスキルアップのためには段階に応じた研修を受講し受講後は研修内容報告会を実施し、全職員で共有が出来るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などには積極的に参加し他の施設の職員と顔なじみになり、お互いが気安く交流できるようにこころがけている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			希2 実践状況	実践状況	実践状況
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に利用者本人が何を望んでいるかじっくり聞き取りを行い、意思疎通が出来ない方には家族担当ケアマネより過去の生活状況性格、趣味、等を聞き出しそれに基づいて利用後の処遇方法に役立てている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅時の家族の苦労やサービスの利用状況、グループホーム利用希望に至るまでの経緯について聞けるように心がけている。家族とも信頼関係が結べるよう何もかも話していけるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	即入居を促すのではなく本人、家族の要望、状況をじっくり把握して必要とあればケアマネ、包括支援センターへつなぎ他方面から支援できるようにつとめている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人、家族の要望、状況をじっくり把握して、利用者担当者・計画作成担当者等を通じて、支援できるようにつとめている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に、本人の体調や状態を伝え、情報を共有できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで築いてきた馴染みの関係を大切にしておく為にも、友人知人の面会もお願いしている。自由な面会の受け入れ、及び文書発送等も積極的に行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	昼間はなるべく居室へ閉じこもらないように促し、ホール等で机に座り、お互いが顔を見て食事をしたり話をしたり出来る環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			希2 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方等は、時々電話をしたり訪問してその後の健康状態、生活状況などを聞き、要望があれば相談に乗るようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を大切にして、出来る限り意向どりの暮らしが出来るように配慮している。意思疎通が困難な方に関しては、家族の意向または本人の立場に立って考え、よりよい暮らしが出来るよう配慮している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にはケアマネや家族などから丁寧に聞き取りを行い入居後にも面会した折には再度過去の状況について聞き取りを行い詳しい生活状況の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の身体状況、認知度の状況を把握し、のびのび生活できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	出来るだけ家族等よりの情報を基によりよいケアプランとなるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の日常生活の様子、気づき等を個人ファイルに記入し出来るだけ申し送り等で情報の共有化に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に応じて、美容院、外出、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			希2 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的な消防訓練の実施を積極的に行っている。又支援センターのソーシャルワーカー、訪問看護師等と連携を図りながら、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	いつでも気軽に相談でき、緊急時に対応してもらえる協力医療機関がある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の協力のもと、健康管理や医療活用の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携病院への定期的受診により、看護師との情報交換に留意しながらサービスの向上に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについては、限界があるためその旨を入居時に家族に説明している。家族に希望を聞き出来るだけ希望に添えるように努力している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設マニュアル、過去の事例をもとに管理者を中心として定期的にカンファレンス、ロールプレイを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回行っている防災訓練を通して災害時における対応策を学んでいる。又、地元消防団、隣接する関連施設への救助要請をできるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			希2 実践状況	実践状況	実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応には気を配っている。特に本人の主張することは拒否しないで傾聴し受容するように心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人一人の意見や希望を重視し大切にしている。又、訴えのない方には選択肢を設けたりして意思を表せるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間がかかっても相手のペースに合わせ見守ることが必要、手を出しすぎないように心がけ、出来ていないことや間違っていることは、共に後からフォローするようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院は外出も兼ね馴染みの美容室に連れて行ってあげ、パーマ等おしゃれしている。身だしなみも季節や気温や場に合わせることは勿論体調に合わせて快適に暮らせるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時間は音楽を聴きながら、和やかな雰囲気の中一人一人が自分のペースで食事をとることができるよう十分な時間を確保し実施しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的には栄養士の献立で調理しているので栄養のバランスはとれている。毎食後の水分摂取量のチェックを行い定期的にお茶の時間を設け水分補給に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入れ歯の洗浄や歯磨きなど食後や就寝前の口腔内の衛生に努めているが嫌がる方の対応が難しい。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			希2 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の誘導や介助はプライドを傷つけないよう配慮して行っている。排泄記録を使用し排泄パターンを把握することによりなるべく失敗しないよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックシートを活用している。下痢状態があるときは粥食にしたり、その時の体調に合わせて柔軟に対応している。また、便秘に関しては、歩行訓練、体操、繊維食摂取等で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望を取り入れ不安や羞恥心に配慮し時間をかけて行っている。ただ、本人が希望しても、バイタルチェックにて異常が出た場合はご遠慮していただく場合がある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく自宅で使用していた布団、枕等を使用していただき馴染みのある環境作りに努めている。夜は安心して深い眠りが取れるように昼間はなるべく活動するように支援して生活リズムの調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬について説明書を全スタッフが目を通すように徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意分野を役割とし、洗濯ほし、洗濯たたみ、家庭菜園などそれぞれ持てる力を発揮して楽しみながら行えるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い時などは近くのビオトープに出かけて行き自然を満喫したり、近所の方と話をしたりして過ごしている。又家族との外出、外食など一緒に出かけられるような場面や機会を作っている。		



自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			希2 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常の金銭管理は、本人の能力に合わせて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があるときは随時電話、手紙にて本人の希望に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内には四季折々の環境作品や花を飾り自宅にいるという空間作りに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆっくり会話が可能なようにソファを配置したりゆっくり座れる場所を用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内への持ち込みは火気を除いては自由としており、自宅で使用していた物に囲まれた生活ができるようにしている。又、ベットやダンスにおいても本人が使いやすい配置にしてある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自身で可能な部分は出来るだけ自分で行っていただくようつとめている。又、転倒の危険性を低くして安全に自由に歩行できるよう配慮している。		